

滝の原便り

社会福祉法人西仁会 広報誌

〒320-0851 宇都宮市鶴田町3 3 8 1

TEL 028-632-7577



大変な新年の始まりであった。誰もが新年の平穏を願う元旦に大地震が能登半島地域を襲った。甚大な被害をもたらした地震発生からひと月が経過した。いまだ1万人を超える方が避難生活を余儀なくされている。一刻も早い被災地の復旧復興と、平穏な日常が戻ることを願うばかりだ。

そのような中、NHK大河ドラマファンお待ちかねの「光る君へ」が始まった。時代は約1000年前、平安時代中期、藤原北家による摂関政治の最盛期である。藤原北家は外戚（天皇の母方親族）として天皇を補佐する摂政・関白の座を握ってきた。政権中枢の要職を巡り、同じ藤原氏が家ごとに分かれ、激しい地位争いが繰り広げられていた。中でも、三人の娘を三代の天皇の中宮にしたのが藤原道長である。この道長との関係について今なお論争が絶えない源氏物語の作者・紫式部（以下「式部」と呼ぶ）が今回のドラマの主人公である。

式部の本名は不明である。式部が宮廷に仕えていたころの女房名は「藤式部（トウノシキブ）」。「この名は「藤原」と父為時の役職名「式部丞」から来ており、現在の紫式部と呼ばれるようになったのは「源氏物語の女主人公・紫の上」が由来とされている。

式部の家柄は最も栄えた藤原北家だが、庶流の出身である。父系では、曾祖父までは上級貴族となる公卿（三位以上）であったが、祖父の代から従五位下に下がり、父の為時もそれから上がることはなかった。母系は祖父が従四位下で父系と同じ中流の貴族で

あった。

長徳2（996）年、父為時は越前国守として赴任することになる。式部24歳のころで、父と共に下向することになった。越前に移り住んだ式部に思いを寄せる男がいた。藤原宣孝という中流の貴族で、式部より20歳年上の、はとこになる。この二人は遠く離れた京と越前の間で幾度となく文を交わすがその様子は紫式部集に収められた和歌で窺い知れる。

長徳4（998）年、式部26歳のころ越前から単身帰京し藤原宣孝と結婚した。二人の間には娘（賢子）が生まれ、幸せの絶頂にあったが、結婚からわずか3年後の長保3（1011）年に夫宣孝は病で亡くなった。幼い娘と取り残された式部、心の支えにしたものは「物語」だった。この時期に「源氏物語」の執筆が始まったと言われている。書き上げられた原稿は友人たちで回し読みされて評判となり、その評判は宮中にも広がっていった。

そこに目を付けたのが、左大臣の藤原道長である。寛弘3（1008）年ころ自分の娘・彰子（一条天皇の中宮）の女房役に式部を抜擢する。その狙いは一条天皇の寵愛を娘の彰子に向けるためである。一条天皇に寵愛され1001年に亡くなった定子（道長の兄の娘）は敦康親王を儲けており、道長には権力を盤石にしていこうと、娘彰子の皇子誕生が必要であった。

女房たちは、後の身のまわりの世話や教育係のほか、后のもとを訪れた天皇をもてなし楽しませることも役割のひとつであった。それだけに彼女た

ちには高い教養と素養が求められた。生前の定子には枕草子を書いた清少納言が仕えていた。彰子にも既に王朝有数の歌人として知られた和泉式部や赤染衛門などが仕えていたが、新たに式部がそこに加わった。

式部は、中宮彰子に漢籍や文学などを教えていたが、彰子や一条天皇は「源氏物語」の愛読者でもあった。特に、天皇は式部に物語の続きを求めたりもした。式部は二人の仲を深める役割を果たしたとも言われている。寛弘5（1008）年、入内から9年して、21歳になった彰子が待望の皇子を出産。娘の彰子が将来の天皇候補を生んだことで、道長はさらなる権力への道が開かれた。式部が道長の支援を受けながら執筆を続けてきた「源氏物語」の完成はこの頃だという。その9年後（1017年）には式部の娘賢子（大式三位）が母の後を継ぎ女院彰子の女房として出仕する。そこには、式部の姿はなかったと言われている。

式部そして道長の人生には不明な部分が数々あり、今後どのように描かれていくのか楽しみだ。また、この機会に本県内にある、平安期の史跡を巡って見るのもいいかも知れない。

理事長 高野 俊彦



ファミリー滝の原

【富士見地区文化祭 中央公園散策】

11月4日

秋晴れの良き日、今年も文化祭に参加してきました。自分で作った作品を見つけ、顔がほころぶ場面も。

その後の公園散策では、秋を感じながらゆつたりとした時を過ごしました。



【もちつき】 12月27日

2Fにて行われた今年のもちつきは、利用者様の声援もあって一層の盛り上がりを見せました。



【クリスマス】 12月24日・25日

今年はプレゼントの代わりに大きなロールケーキタワーをご用意しました。



【新年祝賀会 レクリエーション】 1月1日

様々な願いが込められたおせちを堪能した後は、お待ちかねのレクリエーションです。今年は羽根つきなどを行い、白熱した戦いとなりました。



通所リハビリテーション



〈お食事です〉

季節や行事にあわせての献立が考えられていて、皆さんとても昼食を楽しみにしています。

今回はハロウィンや冬至、クリスマス、お正月、美味しいものがいっぱいどれから食べようか迷ってしまいそうですね。



〈壁画の制作〉

空いている時間を利用し手作業をして大小様々なものを作っています。

12月のクリスマスツリーでは、緑の折り紙に細かくはさみを入れ、貼った物を木に見立て、飾りは切った段ボールに自分の好きな色の折り紙をちぎって貼っていきました。

とても根気のいる作業でしたが、完成し、飾られた作品を見た時の感動は大きかったです。

1月は富士山、だるまさんも作りました。廊下を通る人が、季節を感じ楽しんでもらえたら嬉しいです。



〈レクリエーション〉

ダーツをしました。通所リハビリのダーツは先端に磁石がくっついていきます。投げ方は自由です。

3回投げた得点を競っています。が、何点入ったのかな？とみんなが頑張って計算をしています。



頭の体操にもなりそうですね。

滝の原苑

〈運動会〉 11月22日（水）

今年の競技は、「借り物リレー」「応援合戦・ダンス」「玉入れ」「パン食い競争」でした。
白熱した戦いが繰り広げられ、両者一步も引くことなく、最後はジャンケン勝負に……
戦いを制したのは『白組』でした。



〈お寿司を食べよう〉 11月29日（水）

夕食時にお寿司を食べよう会を開催しました。
大好評の握り寿司とあつて、皆さんあつという間に完食されました。



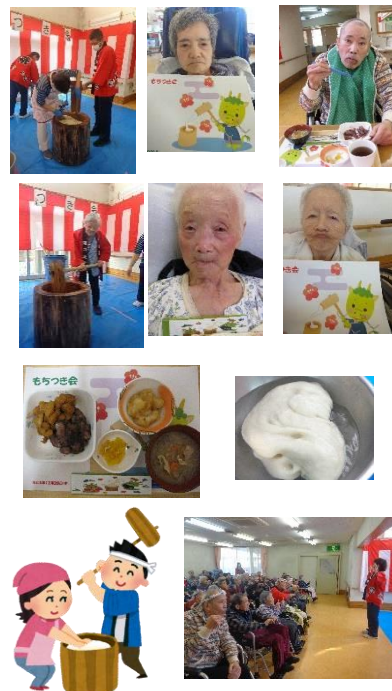
〈クリスマス会〉 12月25日（月）

昼食時にクリスマスランチを楽しんで頂きました。
今年のメニューはドリア、骨付きチキンの照り煮、エビフライ、とろつとスクランブルエッグ、ツリーポテトサラダ、具だくさんのミネストローネスープ、ケーキと洋食メニューを楽しんで頂きました。



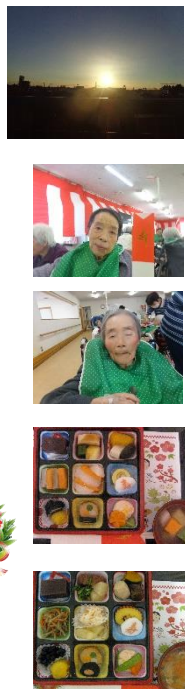
〈もちつき会〉 12月28日（木）

たくさんの方の利用者に参加して頂き、楽しいもちつき会となりました。もちろん昼食はつきたてのおもち。
やはり、あんころ餅が一番人気があり、皆さんにお腹いっぱいになるまで食べて頂きました。



〈新年祝賀会〉 1月1日（月）

昼食時に新年祝賀会を開催しました。
おせち料理やお雑煮を食べながら楽しいひと時を過ごされました。



〈鏡開き〉 1月11日（木）

午後のおやつに、お汁粉を食べて頂きました。



ケアハウス滝の原苑

〈感謝の日々〉

令和5年12月、クリスマスをごし、年末を迎える。
感謝の年でした。
そして、令和6年ケアハウスは例年通りの新年祝賀会を開催。
おせちをいただき仲のよい一年でありますよう、笑み浮かべて、挨拶をかわした。

午後4時ごろ能登半島地震が発生。

現在なお警戒が必要とのこと。
（令和6年1月15日報道発表より）

この度の地震被害に謹んでお見舞い申し上げます。



「存知ですか」紫式部の引きこもり経験

紫式部は時の権力者・藤原道長の要請で、1066年ころ一条天皇の中宮である道長の娘(彰子)に女房として仕えました。当時、彰子のまわりには30名くらいの女性がいて、身の回りの世話や教育係などを務めていました。ところが、そこで待っていたのは女性たちの嫉妬でした。源氏物語の作者として藤原道長から特別の寵愛を受け、さらに完璧に漢籍まで読みこなす才女、その抜群の教養と才能が鼻についたのです。紫式部日記によれば「ひどく風流ぶってよそよそしくて物語好き」「何かというときすぐ歌を詠む」「憎らしい顔で人を見下す人に違いない」「ひどく偉そうな振る舞いだ」などの悪口雑言の仕打ちを受け、式部は宮中になじめず実家に引き込んでしまったのです。

しかし、その5カ月後、式部は宮中に戻ってきたのです。そして自分のこれまでの振る舞いを一変させたのです。そこで見せた振る舞いとは、紫式部日記によると「漢字の『一(いち)』を書けない振りや、屏風に書かれた漢文すら読めない振りをしたと言うのです。このように式部が「つつましい振る舞い」を心掛けたことで、女性たちの紫式部に対する見方も「お会いしてみると不思議なくらいおっとりなさつていて別人かと思いましたわ」などと一転します。

式部は日記の中で「同僚の女房に言いたいこともあるけれど、“何も言うまい”と思う。分かってくれない人に何を言っても無駄。また、何かと文句を言つて“我こそは”と得意になっている人の前では煩わしくて口をきくのも億劫になる」と本音の部分ものぞかせています。

「つつましい振る舞い」で徐々に宮中に馴染んでいた式部は源氏物語の執筆をさらに進めていきました。正に、諺にある「出る杭は打たれる」や「能ある鷹は爪を隠す」のモデルになるようなケースですね。この諺は400〜500年前に出現したようですが、1千年前に生きた紫式部は分かっていたのです。でも、このような風景、現代の職場でも見かけませんか。



新入職員のお知らせ



滝の原 苑



ファミリー滝の原

編集雑記

第10波に入ったとの指摘が相次ぐ新型コロナウイルスの感染拡大が続いています。このウイルスは季節性の流行や変異株の出現によって感染状況は変わると考えられています。季節性としては冬季(正月明け)と夏季(お盆明け)の2回は比較的大きな波が来ます。今回は冬季の流行期で2月中のピーク時まで拡大するとみられています。今、中国・アメリカなどで流行している変異株「JN-1株」が日本でも急速に拡大しているようです。現在のところ、症状や重症化率に大きな影響は起こしていないようですが、基本的感染対策の徹底に努めることが必要です。

昨年はやはり異常なほど暑かったのです。先月12日、世界気象機関は昨年の世界平均気温が産業革命時(1850〜1900年)と比較して1.45℃上昇し、観測史上最も気温の高い年だったことを発表しました。因みに宇都宮でも昨年の日平均気温が観測史上(約130年)最も高かった。ここ30年間の平年値(14.3℃)より1.7度も高いのです。世界は今年さらに暑くなる可能性があるようです。日本は例外であって欲しいですね。

本年2024年の主だった予定を確認しておきましょう。6月には一人3万円の所得税と1万円の住民税減税が始まります。少しは生活も楽になるでしょうか。7月3日には新紙幣が発行となります。ところで、お札の顔はどなただったか覚えていますか。1千円(北里柴三郎・野口英雄)、5千円(津田梅子・樋口一葉)、1万円(渋沢栄一・福沢諭吉)です。7月26日パリ五輪の開幕です。3年前のコロナ禍での東京五輪どんな記憶が残っていますか? 観客で埋め尽くされるパリ大会、さぞかし盛り上がることでしょうね。9月末には岸田文雄自民党総裁の任期が満了します。次の総裁(首相)はどなたが? 11月には米国大統領選挙が行われます。既に共和党と民主党の候補者指名争いの予備選挙が始まっています。トランプ前大統領対バイデン現大統領の公算が大きいようです。米国第一主義を掲げるトランプ氏が再び咲いたら日本はもとより世界は、(大、少々?) 混乱するかも知れませんね。

寒さはまだまだ続きます。ご自愛ください
次号は5月1日発行です

